

今日のトピック 米国の雇用統計 (2016年1月) 雇用は順調に拡大、失業率は5%割れ

ポイント1 雇用者数は15.1万人増

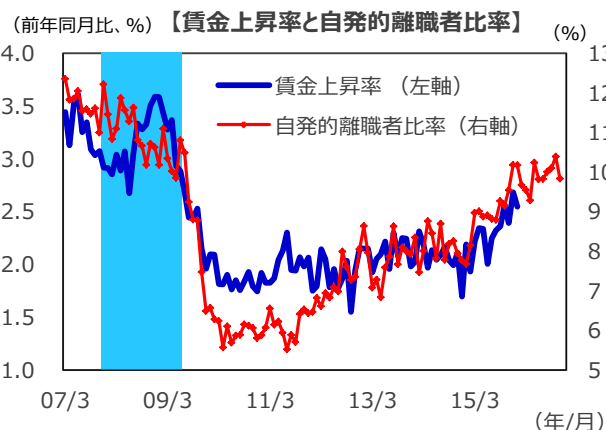
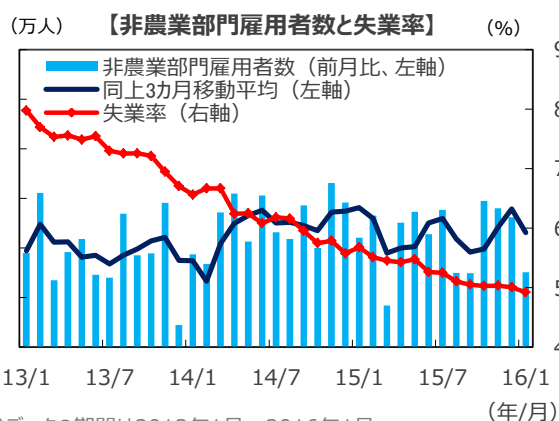
天候要因により、やや下振れ

- 2016年1月の非農業部門雇用者数は前月比15.1万人の増加となり、市場予想（ブルームバーグ集計）の同19.0万人増を下回りました。
- 暖冬の影響で昨年10月～12月の雇用が上振れした反動とみられます。雇用の増加ペースは3カ月移動平均で+23.1万人と、+20万人超の水準を維持しています。
- 業種別では、製造業の増加ペースが加速したのに対し、天候の影響を受けやすい建設業が鈍化、同じく運輸・倉庫は減少に転じました。

ポイント2 失業率は5%割れ

賃金上昇率は前年比2.5%増

- 一方、失業率は前月の5.0%から4.9%に低下しました。景気拡大により労働供給（労働力人口）は大幅に増えましたが、それを上回るペースで労働需要（就業者数）が増加したためです。内容の伴った「質の良い」低下といえます。
- 賃金上昇率は前月比+0.5%となりました。前年同月比では+2.5%と、前月の同+2.7%から鈍化しましたが、労働需給が改善を続けていることを踏まえると、賃金上昇率は今後、底堅く推移すると見られます。



今後の展開 利上げ継続だが、そのペースは緩やかなものとなる見込み

- 5%を下回る失業率の水準は、米国が完全雇用の状態にあることを示すものです。これを背景に2016年も利上げは継続されると予想されます。
- ただし、物価が低位で安定していること、足元の賃金上昇率が依然として低いことなどから、利上げのペースは緩やかなものとなる見込みです。

ここも
チェック! 2016年 2月 4日 米国のISM景況感指数 (2016年1月)
2016年 1月28日 米国の金融政策 (2016年1月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。